屯田兵通信 21

【はじめに】

四年前、市民の皆様から負託を受けて大田原市議会議員一年生として市議会に参加しました。

議員初めての 12 月議会一般質問に、ハコモノ行政は必ず将来そのツケは子供たちに回す事になるから反対であると当時の行政執行部の推し進めるハコモノ行政に異議を唱えた。当時の議会構成は圧倒的多数が旧市長派であり、議員数の３分の２以上を占める中で議会は旧市長派と行政側だけの話し合いですべては決定され、議会は旧市長礼賛のための儀式の場と化してしまっていた。

ハコモノ行政糾弾の機関紙を毎回発刊していたら、まず旧市長派から機関紙発行そのものが議員倫理条例違反として攻撃を開始してきた。機関紙発行そのものは日本国憲法それからの地方自治法、公職選挙法にも保証されている何人も犯す事が出来ない国民の規範です。

ある議員は私に対して云うには「ここは大田原市であり、大田原市議会がすべてなのであり、深沢議員も倫理条例に従うべきだ。」まさに泡沫転倒した時代錯誤的な発想がまかり通っているのであって、まさしく市民は地獄・役人天国になるのは当然だと強く自覚し、議会改革のための戦いとハコモノ行政に奔走する行政との闘いを開始したのです。

【アンタッチャブルの世界】

旧市長派は旧市長が推し進めようとするハコモノ行政 (当時黒羽統合中学校、記念樹の森、水辺公園、中心市街地活性化事業等々) を市民の苦痛を忘れて奔走していった。

そして当時の議会事務局は市長派と一体となって抵抗する会派に対して徹底したアラ探しに躍起となり、トイレの中の立ち話も証拠として平然として持ち出す始末であった。当然会派控室にまで盗聴器が仕掛けられているのではないかと危惧し、事実会派控室のドアの外には聞く耳を立てて中の様子を伺う有様であった。こんな茶番劇をいつまでも続ける事は出来ないし、私は機関紙を通して遠まわしに訴えてきたが、その都度文字の誤りから、数字的表現の誤りを見つけ出し、私を罪たらしめるために吠えまくってきたのです。

そのお蔭もあり、表現能力も向上して感謝する次第であり、機関紙活動の重要さも改めて実感した次第でもあります。そして市民の皆様には私の目線で判断する議会情報を届ける使命感を改めて実感した次第でもあります。

【闇の世界の終焉】

その当時、議員の特権意識を助長させるものに政務調査費があった。之は議員資質の向上とそれを議会活動に反映させて市民に奉仕させる事を目的として国の条例で認められたものであった。政務調査費の支給額、支給方法も各自治体間では別々であり統一したものがなかった。その為に議員個人が私的流用が問題となる例が数多く発生していた。

大田原市の場合の政務調査費は議員一人当たり年間 25 万円、個人にではなく会派に支給というものであった。当然会派ごとに決算報告書は出ているものと考えて決算報告書を公開請求したところ大慌てとなり、何やこれや口実をつくって公開しようとしなかった。その為に地裁に政務調査費の返還訴訟を提訴する。

この訴訟に対して当時の市長は記者会見の席上、大見栄を張って受けて立つ事を宣言したのです。結果的には私が勝訴し、市側は敗訴したのである。慌てた旧市長は政務調査費の廃止を市長派議員との間で決めこんだのである。

【旧市長派の猛反撃に耐えて】

旧市長派は私たち二人の議員には議員として失職させようと企み、ありとあらゆる謀議をめぐらし、極悪人に仕立てて社会的抹殺と議会からの追放を策した。先ず一方的な懲罰委員会で断罪し、百条調査委員会を設置し、委員会の持つ最高罰を加えると云うものであった。これに対し、地裁は「議会の自律権の範疇」として最終的決定を回避したのです。だがもう一人の議員は名誉棄損で大田原簡易裁判所に提訴した。この結果は旧市長派議員一部の暴走が明らるみにされて旧市長派の完全敗訴となり、一連の多数派の暴走が法廷の場で明らかにされたのです。

議員が議員という権力を乱用されるとトンデモナイ事になる典型的例です。
しかも市長ともなればその権力は絶対的なものになる訳です。だからこそ議会の二元代表という制度がある訳です。

【新たなる時代の始まりと苦難の中の再生の道】

昨年３月、大田原市も市長選挙を迎えて現職有利の下馬評をはねのけて現市長津久井富雄氏が初当選を果たした。しかも圧倒的大差をつけての当選であった。しかし数の上では絶対的多数を占める議会運営で新市長は副市長、教育長選任問題では議会で否決され、厳しい議会多数派の先制攻撃を受け、苦境に陥ったが、その後、苦境を脱したが・・・。

だがその後、旧市長時代の公金紛失事件が明るみになり、公金管理不手際が問題となるが、旧市長派の議長は問題を先送りして必死になって旧市長擁護のために奔走し、問題は闇に葬られたのです。しかも議会で不信任を突き付けられた議長が今なお議長席に君臨している。地方自治法によればそれも可能だが・・・。旧態然た

る大田原市議会の古き風土がそこには顕然としている。

新市長がはじめて市長の考えを予算編成に反映させられるべき三月議会では予想だにしない未曽有の大災害が発生し、市庁舎をはじめとして市内各所に被害が発生した。人的被害は重症者を含む負傷者は出たが、死亡者が出なかった事だけでも幸いとしなければならない。

新市長にすれば困難、苦難続きの日々であって同情に値します。
しかし苦難・困難続きの市長だが、これからの大田原市をどう立て直していくかが一段と鮮明になったのではないだろうか。

ハコモノ行政への清算と疲弊した財政再建が必須の課題

ハコモノ行政のツケが次第に鮮明になって市財政を圧迫し始めている、そしてさらに一部の勢力は更なる箱モノづくりに暗躍し始めてもいる。震災復興をまず優先し、それまでのハコモノにはきちんとしたケジメをつけるべきと考えます。深刻な高齢化社会を迎えるにあたって少ない年金で慎ましい生活を強いられる圧倒的多数の市民の生活を考えれば考えるほどハコモノ行政に対する清算は不可欠です。

身の丈に合った財政運営を

少子高齢化の流れは避けては通れない時代状況となった。即ち低成長時代に突入し、日本の経済成長も益々鈍化傾向を強める。同時に国や自治体の実質税収は益々鈍化していくだろうと想定できます。他方、税支出は介護福祉等において益々増加していくものと推定できる。戦後の高度経済成長の時代は残滓ともいうべきハコモノはその維持管理費が財政を毎年圧迫し、トンデモナイ結果を市民に押し付ける事は明らかだ。

議員は議員らしく、議会は議会らしく

3/11 東日本大震災、フクシマ第一原発事故、放射能被曝汚染等々は市民を不安心のドン底に追い込んでしまった。こんな時代だから議員には議員としての資質が問われると同時に市民の信頼に応え得る議会が必要とされるのだと思います。もはや与党だとか野党だとかの時代ではなくなったのです。だからこそ議会は議会としての役目つまり行政の監視者、政策提案者としての役目を果たしていかねばならない。

行政は平等に・政治は弱者のために

これからの時代は格差社会が進行していくだろうし、市民の中にも社会的強弱が生じる。深沢賢市は必ず市民目線で物事を判断し行動していきます。行政の手助けを必要とする人々に行政の光を照らします。

ハコモノ行政の悪しき残滓である再開発ビルには絶対反対

市民が知れば知るほど誰もが口を揃いてあんな公金の無駄遣いとして断言する再開発ビルには議員として私は大反対です。再開発ビルそのものが時代錯誤の典型であり、一部の利権者のために市民の大事な公金をドブに捨てるようなものです。本来ならば商工会の中の町作りカンパニーが責任を持って遂行すべき産物であるにもかかわらず、市役所職員がテナントの募集を行うと云った奇々怪々なものです。しかも市長は債務保証契約は絶対にないと云っているが・・・。これまでに全国のあちこちの自治体がこの債務保証のために危機に瀕しているのです。

【編集後記】

市民の皆様の温かいご支援、ご協力によって市民の皆様のお蔭さまで今回の屯田通信の発刊回数も 21 号を重ねる事が出来ました。本当にありがとうございました。これからも市民の目線で議会報告及び私の意見を発表していきたいと思っていますので改めて宜しく叱咤激励をお願いします。

本来ならば私の主義主張に賛否はともかく全市民の皆様にお届けしていきたいと思いますが、屯田兵通信を市民の目に触れさせないと意図する一部悪質な連中の大田原市特有の嫌がらせに遭っています。とはいっても私が直接皆様方にお伺いするのが筋だと思います。

出来るだけ最大限の努力はしますので宜しくお願いします。

【発行責任者プロフィール】

深　沢　賢　市

住　　所　栃木県大田原市寒井 1468 の 2

生年月日　昭和２７年６月２９日生れ (満 59 歳)

経　　歴　大田原高校卒

中央大学理工学部卒

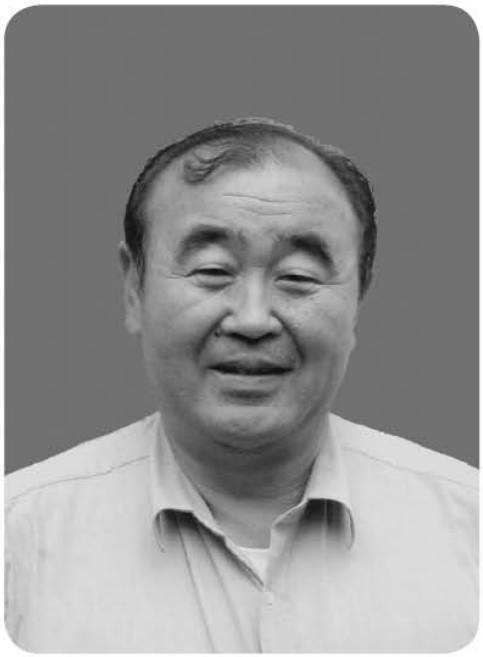
黒羽町議会議員２年で編入のため失職

大田原市議会議員１期途中

大田原市議会民生常任委員会副委員長

オンブズ栃木

地方自治を学ぶ会会員



連 絡 先　TEL 0287-54-3944

携帯 080-3214-4851

特　　技　柔道２段